

助産婦雑誌 第55巻 総目次

2001年1－12月

(表題は、題名：筆者名、号数、開始ページ数)

特集

[1月号] 21世紀のいのち

助産婦と科学：気がかりな同盟関係：ジョイス・E・トンプソン，訳／戸田律子，1，9.

生命とは何か 35億年の連綿：長谷川真理子，1，15.

〈読者応募論文〉

① 21世紀につなぐいのち 自宅出産で上の子にいのちのバトンタッチ：白濱奈々子，1，21.

② 本当の自然出産に出会い，いのちの力強さを知る：佐藤志つ枝，1，25.

③ 「いのち」は人を思いやる心によって支えられる：高橋由紀，1，30.

ゲノム時代の人間：清水信義，1，35.

ふつうのことをしていくために：立岩真也，1，39.

「いのち」について周産期臨床心理士の考えること いのちの光と影をともに抱えたい：橋本洋子，1，45.

〔対談〕「森のイスキア」でいのちについて語る：佐藤初女・宮迫千鶴，1，51.

[2月号] タッチケア(上)

総論：タッチケアへの流れとその理解：橋本武夫，2，9.

NICUでのタッチケア，ホールディング 聖マリア病院母子総合医療センターの場合：吉永陽一郎・庄山紀子，2，14.

NICUでのタッチケア，ホールディング 聖路加国際病院の場合：布施和枝，2，19.

ベビーのストレス徴候のみかた：泉清徳・吉永陽一郎，2，23.

タッチケアを行なう際のお母さん，お父さんへの配慮：飯田ゆみ子，2，27.

出生直後の早期接触とタッチケアそして母乳育児：標まさみ・中根直子・村上睦子，2，32.

タッチケアの病棟での展開：的場晴美，2，39.

生まれて2～3か月からのタッチケア：井村真澄，2，44.

[3月号] タッチケア(下)

〈ふれあうことの心とからだのメカニズム〉

① 発達神経学からみたふれあい：前川喜平，3，9.

② 心理学からみたタッチ：渋谷昌三，3，15.

③ [インタビュー] 生理学からみたタッチ：岩村吉晃・井村真澄，3，19.

④ 神経科学からみたタッチ：池本桂子，3，26.

〈妊産婦へのタッチケア——エキスパート助産婦の技に学ぶ〉

① タッチはお母さんの成熟を促す：神谷整子，3，30.

② [座談会] 愛情をもって心に触れる関わりを：賀久はつ・毛利種子・瀧澤和子，3，35.

妊婦・出産・育児期におけるお父さん・お母さんのハグアンドタッチ：鷹見安浩・鷹見久枝，3，41.

カンガルーケア：堀内勤，3，47.

[4月号] 出産のヒューマンゼーション ブラジル

JICA 家族計画母子保健プロジェクトの経験から 出産のヒューマンゼーション Projeto Luz(光のプロジェクト)の軌跡と学び：三砂ちづる，4，9.

JICA ブラジル母子保健プロジェクト総括責任者の立場から：梅内拓生，4，18.

国際会議の準備，開催そして会議がもたらしたもの：羽根田潔，4，21.

〈ブラジル国際会議参加記〉

① 産婦人科医が見たブラジル国際会議：亀田隆，4，25.

② ブラジルでのワークショップ体験：北村稔子，4，29.

変革のためのトレーニング：T.O.T.：小貫大輔，4，33.

プロジェクトの「モノ」づくり：定森徹，4，38.

〔座談会〕「光のプロジェクト」が私たちにもたらしたもの ブラジルからの研修生に聞く：三砂ちづる，アンジェラ・ロドリゲス，イネイダ・サーレス，シルビオ・カルロス・フレイタス，4，41.

日本の助産婦はどうかかわったか：藤原美幸，4，47.

日本の助産婦ができたこと，これからできること：毛利多恵子，4，52.

短期専門家の語る、それぞれのプロジェクト活動：堀内成子・左古かず子・赤山美智代・三宅馨・加納尚美，4，58.

[5月号]ウィメンズヘルスケア

日本におけるウィメンズヘルスケアの展開—助産婦の立場から：成田伸，5，9.

日本におけるウィメンズヘルスケア：鈴木幸子，5，14.

「ウィミンズ」のウィメンズヘルスケアへの取り組み：藤田しおり，5，20.

フェミニズム理論とウィメンズヘルスケア：吉沢豊子，5，25.

もっと女性のことを大切にしてほしい！—女性の声に
応える米国助産婦の役割：大石時子，5，31.

ウィメンズヘルス・ナースプラクティショナーの活動
と教育を知る研修：跡上富美・布原佳奈・望月良美，5，38.

わが国のウィメンズヘルスの課題：対馬ルリ子，5，46.

避妊カウンセリング：入内嶋明美，5，52.

[6月号]進化する助産診断

看護診断と助産診断の動向：青木康子，6，9.

[座談会]助産診断をもっと助産婦のものに：齋藤益子・渡辺久枝・中本加寿代・関島英子，6，15.

助産診断における健康生活診断の記述表現：片山美都子，6，21.

新類型による助産診断教育の実際：熊澤美奈好・高橋弘子・池田圭子・田島成美・河北伸枝，6，27.

[座談会]亀田医療技術専門学校助産学科の新しい診断
類型による助産診断：熊澤美奈好・高橋弘子・最上佳代・長根美世子，6，33.

島根県立看護短期大学専攻科助産学専攻の助産診断教育：三島みどり，6，38.

産褥期の健康生活に関する助産診断名の開発：小山厚子・青木康子・片山美都子・菊地敦子・熊澤美奈好・齋藤益子・関島英子・濱寄真由美・山崎トヨ・横尾真理子，6，46.

[7月号]妊婦中毒症

妊娠中毒症の新しい概念：水上尚典，7，9.

妊娠中毒症の病因，病態，治療：金山尚裕，7，12.

助産婦外来におけるフィジカル・アセスメント：佐藤亜紀子・新田明美，7，19.

妊娠継続の中断を余儀なくされた妊産褥婦へのケア：落合直美・永松文，7，25.

[座談会]妊娠中毒症合併症妊産婦のケアの実際：渡辺道子・田中純・斎藤景子・廣沢美由季・岡安親子，7，31.

妊娠中毒症予防のための開業助産婦のケア：大谷タカコ，7，40.

[座談会]妊産婦の肥満と体重コントロール：福井トシ子・中村丁次・佐中眞由実・黒川寿美江・門脇孝，7，45.

[8月号]助産婦のになう性教育

「生命の大切さ出前講座」に取り組んで：鈴木せい子，8，9.

群馬県助産婦会「いのちの教育」実践セミナーを開催して：鈴木せい子・真下由利子・関口雅美・秋山三重子，8，16.

ニューヨーク大学の性教育指導者養成プログラム：鍛冶良実，8，22.

学校での性教育で助産婦は何をになえるか：石川英二，8，27.

草加市立病院の10年のあゆみ：相島初江・武井恒代・山崎いつ子・渡辺楨子，8，32.

カリキュラムに性教育を入れる：栗飯原真弓・大野友子・森本孝子・浦田正代，8，39.

〈私たちが行なっている性教育〉

①市立加西病院：助産婦ならではの性教育の提供：大塚記美代，8，47.

②日本助産婦会東京都支部 AYA の会 職能団体が
つくる性教育の提供システム：清水理花，8，51.

③「生と性の学習会」のめざすものとワークショップの
実際：坂谷理恵子，8，57.

④50年の歴史をもつ聖バルナバ病院の性教育活動：
山松桂子，8，62.

今，なぜ，思春期保健でピア・カウンセリングなの
か：高村寿子，8，67.

[9月号]「三歳児神話」の検証

三歳児神話とはなにか：大日向雅美，9，9.

「三歳児神話」をめぐる世界の研究動向：榊原洋一，9，14.

赤ちゃん研究の動向：小西行郎，9，19.

親になるプロセスと親であることへの習熟化：氏家達夫，9，23.

親も育ち合うアトム共同保育所：横川和夫，9，28.

母乳育児と女性のエンパワメント：高橋万由美，9，34.

乳幼児を持つ母親への支援：母乳育児を中心として：
本郷寛子，9，39.

保育園からみる最近の育児と親子関係：山路エミル，9，44.

[座談会]「赤ちゃん学」を誕生させよう：戸田律子・榊原洋一・大日向雅美・永山美千子・小西行郎，9，51.

[10月号]女性の産む力を引き出すケア

助産の真髄：女性の産む力を引き出すこと：堀内成子，10，9.

助産婦に何が求められているか 出産ケアに関する全

国調査より：島田三恵子，10，14.
産科医として関わる主体的なお産 「産みだす力」に圧
倒される，幸せな日々：加藤龍太，10，20.
産む力を引き出す出産準備クラス：戸田律子，10，
26.
「ドゥーラ」からのメッセージ：本山よし子，10，32.
過去10年間のお産リフォーム 湘南鎌倉総合病院の
取り組み：井上裕美・長谷川充子，10，38.
開業して2年，安全な，産む女性がその人らしくある
お産を みちつき助産院の取り組み：更科佳子，
10，46.

[11月号]婦人科がん患者のケア

婦人科がん患者になるということ：まつばらけい，
11，9.
婦人科がん—最新の検査と治療：磯西成治，11，18.
産婦人科混合病棟の助産婦の役割：江角二三子，11，
22.
婦人科がん患者のケアの実際：宗形初枝・増子孝子・
佐藤聡子，11，30.
婦人科ユーザからケアサイドへの熱き要望 医療環境
を見直し，配慮ある応対を：わたなべゆうこ，11，
35.
婦人科がん患者への精神的ケアそして患者会：今西由
紀夫，11，41.
がん患者のメンタルケア：坂田三允，11，46.
サポートグループリスト：わたなべゆうこ，11，50.

[12月号]周産期の記録

記録とは何か：坂本すが，12，9.
クリニカルパス作成に必要な看護基準と標準看護計画
裏づけのある記録のために：福井トシ子，12，13.
看護記録の電子化における看護過程のプロセスと実施
記録：葛西圭子，12，19.
杏林大学病院総合周産期母子医療センターにおける周
産期の看護記録の実際：日高美弥子・砥石和子，
12，26.
亀田総合病院産科病棟における看護記録の実際：原洋
子・関純枝，12，36.
[鼎談]助産記録のありかた 医療事故の視点から：押
田茂實・石井トク・福井トシ子，12，45.

特別記事

速報：「出産と出生のヒューマニゼーションに関する
国際会議」 ブラジル・セアラ州フォルタレーザ市
(2000年11月2～4日)：藤原美幸・きくちさかえ，
1，58.
第1回「出産のヒューマニゼーション研究会」開催記
テーマ／フリースタイル出産を考える：竹内正人，
2，53.
第1回「出産のヒューマニゼーション研究会」シンポジ

スト感想記：井上裕美・戸田律子・中根直子，2，
59.
[座談会]世界の助産婦ネットで助産の定義と哲学を根
づかせよう 国際派助産婦は語る：大石時子・ジャ
ネット・シュワブ・夏目奈緒子，2，62.
いいお産の日 in'00 レポート 次世代への「愛」ってな
んだらう：兼松弘子，3，68.
[座談会]「女性用コンドーム」と助産婦の役割 日本
家族計画協会クリニック相談員(助産婦)による：清
水敬子・笛田恵子・羽田真里子・星弘美・菅井育
美，3，75.
[座談会]産院情報誌を作った私たち：河合蘭・西井紀
代子・井沢彩野・山本智美，5，69.
[対談]市民と医師が探る新しい小児医療と NICU の
あり方：朝倉幹晴・加部一彦，6，52.
[インタビュー]「日本赤ちゃん学会」誕生 子どもの
発達とはなにか：小西行郎，7，52.
助産婦のための緊急避妊講座：北村邦夫，8，76.
[インタビュー]緊急避妊ピル使用3人の女性に聞く：
杉村由香理，8，82.
南野知恵子厚生労働副大臣インタビュー 助産婦・看
護職・国民のための政策を提言していきたい 聞き
手／本誌，9，66.
男性助産士に関する「助産」選択学生の意見：新井利佳
子・植村彩子・前田一枝・高知恵・町浦美智子・末
原紀美代，9，71.
[鼎談]いいケアを提供するために困難をどう克服して
いったか：高橋八重子・深澤千映子・森田輝，11，
54.

特別寄稿

男女が参画できる専門職として助産婦業務を確立しよ
う 21世紀は男女共生の時代：齋藤益子，1，64.
亀田医療技術専門学校助産学科の特色と実践：熊澤美
奈好，3，57.
日本の母子保健の新プラン「健やか親子21」と助産
婦：椎葉茂樹，3，62.
後輩助産婦に「助産術」を教える：中根直子，5，57.
最果ての与那国島で議員を務めた産婆さん 玉城喜美
代さん聞き書き：松田良孝，5，62.
病院内助産院の水中出産60件の取り組み：石村朱
美・高橋八重子，7，60.
訪問看護ステーションにおける助産婦の母子保健活動
子育て支援モデル事業と今後の展望：小島由美，9，
58.
新しい時代の到来を告げた日本遺伝カウンセリング学
会の誕生：佐藤孝道，10，53.
コアコンペティンシーズ作成に取り組む ICM 2001年
3月 ICM ハラーレ会議の報告：大関信子，10，56.
代理出産，何が問題か：鈴木良子，10，65.
助産院助産婦の大学病院研修記：渡辺愛，11，60.

美術の中のこどもたち：長岡由美子，12，53.
英国のマタニティ・ケアの“今”と緊急時の対応(前編)：横手直美，12，58.

連載・新生児医療最新トピックス：仁志田博司

新生児呼吸管理の最近の進歩Ⅰ，1，77.
新生児の呼吸管理の進歩Ⅱ，2，73.
新生児感染症のトピックス 古くて新しい問題の再燃，3，82.
中枢神経系の話：PVLと脳低体温療法，4，79.
未熟児の栄養法—華ひらく消化吸收機能，5，80.
個別的発達促進ケア(Ⅰ) NICUケアの新しい風，6，67.
個別的発達促進ケア(Ⅱ) NICUケアの新しい風，7，68.
重要な新生児疾患の新しい考え方 昔の名前で出ていても，概念は変化，9，82.
守られるべき命を守る新しい方法 RSウイルスによる呼吸器感染の免疫学的予防法，10，80.
新生児マス・スクリーニングの最近の話題，11，76.
サイトカイン：生体の細胞と細胞の間を駆けめぐる不思議な物質(上)，12，72.

連載・助産婦のための疫学入門：三砂ちづる

疫学のためのコンピュータプログラム：Epi Info(エピインフォ)，1，71.
“あなたの真実”を科学する リサーチ・クエスチョンと研究計画書，2，68.
質問票を作る，4，73.
EBM ふたたび，5，76.

連載・判例にみるジェンダー：石井トク

非配偶者間人工授精で出生した子と父親の法的関係，1，84.
大学院生に対する助教授のセクハラ，2，86.
妻に対する夫の暴力と夫からの離婚請求，3，88.
妻子ある男性のストーカー，4，86.
不貞行為をした夫からの離婚請求，5，86.
日本人男女間に生まれた子どもの養育費をめぐる米国の裁判，6，80.
95歳の老母による息子ごろし，7，84.
「嫌がらせ電話」によるPTSDと傷害罪，8，90.
胎児の権利，10，84.
性同一性障害と性別に関する戸籍訂正，11，82.
妻の「エホバの証人」宗教活動と婚姻関係，12，82.

連載・英国助産婦学生日記：日方圭子

合格通知が届くまで，1，88.

大学入学準備，2，88.
2000年9月新学期開始，3，90.
サリー大学で取れる助産コース，4，88.
2000年10月現場見学週間(その1)，5，88.
2000年10月現場見学週間(その2)，6，82.
2000年11月初の退学者，7，86.
イギリスの冬を体験する，8，92.
コミュニティ実習始まる，9，94.
初めてお産を見る，10，86.
2001年春の出来事，11，84.
充実した1年を終えて夏休みへ，12，84.

REBORN 聞き書きシリーズ につぼんの助産婦のしごと

岩手県：及川サトミさん 92歳，日本の出産の目撃者：きくちさかえ，6，60.
東京都：大塚すえの・福岡光子さん 母娘二代で一世紀：三宅はつえ，11，69.

研究・調査・報告

人工生殖による親子関係の法的見解：久保田隆子，2，80.
子どもの障害を受容したきっかけと受容過程：多田美奈・松尾壽子・山内葉月，4，66.
実母の母乳育児意識と褥婦の混合栄養育児移行との関係：岩井弥生・川由京子，6，72.
あかね助産院開業記：奥田朱美，7，77.
妊娠中の乳頭チェックが母乳育児の継続に与える影響：岡田光恵，9，76.
産む人が安全で満足のいく出産ケアのできる助産婦の育成をめざして：藤本照代・重安日登美・石田京子・戸井間充子，11，64.
大分県の統計から見る助産婦の過去・現在・未来：吉留厚子，12，67.

ケースレポート

17歳の若年妊産婦の受け持ち看護：小安美恵子・菱沼キン子・斎藤照代，10，72.

トピックス

「くまでつうしん」が『だから日本に助産婦さんが必要です』を発行，6，57.
「健やか親子21」推進協議会の設立，6，58.
仙台的岩本産婦人科医師が「続・いま時の避妊法／高校生バージョン」を自費出版，7，51.
日本小児科学会主催公開フォーラム「小児の脳死臓器移植はいかにあるべきか」開催の経緯とその意義：仁志田博司，7，74.
「助産婦さん」を紹介するパンフレットをつくりまし

た：宇佐美とよみ・佐々恵子，7，82.
「性と健康を考える女性専門家の会」が，中・高・大学生向けにビデオ「避妊」を作成，8，15.
「中学生のためのラブ&ボディ BOOK」を作成，中学校に配布：新野由子，8，73.
男性が助産婦業務をすることに関する意識調査：山本智美，8，88.
第3回日本母性看護学会学術集会開催される：福島裕子，10，78.
国境を越える『からだ・私たち自身』—ユトレヒト会議の報告：荻野美穂，10，83.
厚生労働省新母子保健課長谷口隆氏に聞く，11，74.
「日本母乳の会」10周年シンポジウムが開かれる：永山美千子，12，78.

クローズアップ

食はいのち。「森のイスキア」を主宰する 佐藤初女さん，1，1.
母子の絆づくりのスキル。お母さんにタッチケアを伝える 井村真澄さん，2，1.
助産婦学校を開校しました。亀田医療技術専門学校助産学科の教員の皆さん，3，1.
ブラジルの「人間的な出産ケア」推進のために来日した医師と看護婦の JICA 研修生，4，1.
「私たちは女性の健康のサポーター」岡山中央病院ウィミンズの金重恵美子医師と藤田しおり助産婦，5，1.
市民の立場で小児医療の充実に取り組む，船橋市議の朝倉幹晴氏，6，1.
第1回「日本赤ちゃん学会」会長を務めた小西行郎氏，7，1.
性教育の「出前講座」はフル回転 群馬県助産婦会の皆さん，8，1.
訪問看護ステーションで活躍する助産婦の小島由美さん，9，1.
「日本遺伝カウンセリング学会」誕生。学術集会会長を務めた佐藤孝道氏，10，1.
「子宮・卵巣がんのサポートグループあいあい」主宰者のまつばらけい氏，11，1.
美術の中の子どもたち，12，1.

いのちの響き・宮崎雅子

新しい風，1，4.
小さな宝もの，2，4.
魔法のじゅうたん，3，4.
天国にいるきよ美さん，4，4.
光りに包まれて，5，4.
小さな動物園，6，4.
晴れの日に，7，4.
歓喜に満ちて，8，4.

こうのとりの号がゆく，9，4.
いのちの祭り，10，4.
抱きしめ合おう，11，4.
聖なる出産，12，4.

とらうべ

2001年からの出発：宮原忍，1，5.
悩める家庭科教師の心：浅野絹代，2，5.
何よりも害をなさぬこと：須磨忠昭，3，5.
メディア・リテラシーの育成を：菅谷明子，4，5.
助産師問題もう一つの視点：鍛冶良実，5，5.
相手を肯定的に見る癖をつけよう—心のケアの基本：田村毅，6，5.
思春期は女の子だけのもの？：熊本悦明，7，5.
羞恥心のとりあつかい：中沢けい，8，5.
映画のすすめ：片場嘉明，9，5.
日本の美しい助産に触れて：ステイシャ・バーザル，10，5.
蘇る月：志賀勝，11，5.
アメリカでみた高齢者の自立：玄幡真美，12，5.

今月のニュース診断：加藤秀一，斎藤有紀子

「性の商品化」をめぐる 私たちは何を・どのような視点から問えばよいのか：加藤秀一，1，6.
HIV 感染者の児の希望と体外受精：斎藤有紀子，2，6.
「生そのものという損害」の意味 フランスの Wrongful Life 訴訟をめぐる：加藤秀一，3，6.
生殖補助医療技術の議論から見えること 生殖機能の拡大を保障される人と，放棄を求められる人：斎藤有紀子，4，6.
人間のクローニングについて：加藤秀一，5，6.
妊婦の「善意の組織提供」を考える 臍帯血，胎盤提供の可能性を見すえて：斎藤有紀子，6，6.
日本における「代理母」の実施：加藤秀一，7，6.
欠格条項の見直し 障害をもつ助産婦を迎える社会：斎藤有紀子，8，6.
アメリカにおける妊娠中絶の現在 先端生殖技術の奔流の中で振り返る：加藤秀一，9，6.
障害をもつ人の性を考えること：斎藤有紀子，10，6.
生命の価値についてのささやかな考察 惨劇のあとで。代理母問題をめぐって：加藤秀一，11，6.
「狂牛病」報道に思うこと：斎藤有紀子，12，6.

BOOK

“ふれあう”ことのパワーが描かれた絵本『HUG』：梅田馨，3，54.
『ピル博士のピルブック』，9，90.
『助産の文化人類学』，10，91.

『なぜ婦人科にかかりにくいのか?』, 11, 40.

マイブック

女性たちに、お産の選択肢を知らせたい 『お産選びマニュアル——いま、赤ちゃんを産むなら』: 河合蘭, 4, 92.

議論されているのは、いったい何なのか 『中絶論争とアメリカ社会—身体をめぐる戦争』を書いて: 荻野美穂, 9, 92.

日本の青少年の健全なセクシュアリティ育成のために 『性非行少年の心理療法』を執筆して: 針間克己, 12, 80.

書評

『母性とメンタルヘルス』: 大関信子, 6, 79.

りれー随筆

小児科病棟で看護を経験中: 高橋久美子, 1, 90.

この道へ導かれて: 渡辺美和, 2, 90.

30歳からの挑戦—私が助産婦になった理由: 山田美也子, 3, 92.

素人園芸日記: 富吉由香里, 4, 90.

眠れぬ育児: 中村和海, 5, 90.

ダイビングのすすめ: 谷川ゆみ子, 6, 86.

OUR WAY OF LIFE: スケッチャーノ・潤子, 7, 88.

「我に返れ」のメッセージ: 西森久江, 8, 94.

子供を通して学ぶ日々: 竹内真美, 10, 88.

助産婦歴四半世紀: 西幸江, 11, 86.

フィリピンでの幸福: 富田江里子, 12, 86.

その他

コラム「日本タッチケア研究会」の紹介: 前川喜平, 2, 22.

読者のこえ「読者カード」から, 3, 53.

読者談話室「混合病棟で働く助産婦のつぶやき」: 鈴木由美, 12, 77.

INFORMATION

第27回 全国助産婦教育協議会研修会

テーマ／あなたもわたしもエンパワメント

今回の研修は、エンパワメントをキーワードに、助産に携わる助産婦一人ひとりが生き生きと活動できるように、また、妊産婦が主体的にお産に臨むことができるように、それぞれのエンパワメントについて考え、感じる内容を企画いたしました。

実践の場にいらっしゃる皆様、教育の場にいらっしゃる皆様、どうぞお誘いあわせのうえ、ご参加くださいますようお願いしております。

期日: 平成14年3月19日(火)・20日(水)

会場: 大阪ガーデンパレス

〒532-0004 大阪市淀川区西宮原1-3-35

プログラム:

3月19日(火) 助産婦が社会で必要な理由

スライドショー 「産むこと、生まれてくること」

講演 「ブラジル母子保健プロジェクト『光のプロジェクト』からみえたもの」① 藤原美幸 ② 三砂ちづる

講演 「臨床心理からみた助産」奥田由子

講演 「『だから日本に助産婦さんが必要です』をわたしがつくった理由」熊手麻紀子

3月20日(水) 問われる助産教育

講演 「ブラジル母子保健プロジェクト『光のプロジェクト』からみえたもの」③ 毛利多恵子

講演 「アメリカの助産教育と実践から学んだもの」大石時子

シンポジウム 「助産実習はこれで十分か?」

芦田千恵美・矢部彰子・江川恵子・田中春美

◆参加申込み要領◆

申込み方法(先着250名):

参加希望者は、郵便振替用紙に氏名、住所をご記入の上お申込みください。

なお、当日受付に、郵便振替の半券をお持ちください。

参加費: 会員12,000円 非会員15,000円

郵便振込先: 口座番号 00970-7-43763

名義 全国助産婦教育協議会研修会

◆問い合わせ先◆

聖バルナバ助産婦学院

第27回全国助産婦教育協議会研修会 事務局宛

〒543-0032 大阪市天王寺区細工谷1-3-32

TEL 06-6779-1675 FAX 06-6779-1287